

## 第12回 長安ロダム環境モニタリング委員会 議事概要

### 1. 日付、出席委員：

令和4年2月24日（木） 湯城 豊勝（阿南工業高等専門学校 名誉教授）  
令和4年2月25日（金） 山田 量崇（徳島県立博物館 学芸係長）  
令和4年3月8日（火） 河口 洋一（徳島大学大学院 准教授）  
令和4年3月9日（水） 山中 亮一（徳島大学 講師）  
令和4年3月10日（木） 木下 覺（徳島県植物誌研究会 会長）  
松田 春菜（四国大学 講師）  
令和4年3月18日（月） 湯城 豊勝（阿南工業高等専門学校 名誉教授）

※新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、各委員への持ち回り審議とした。

※小林 實（(元) 河川・溪流環境アドバイザー）委員からは、書面による回答をいただいた。

### 2. 配付資料：

資料1 議事次第

資料2 環境モニタリング調査実施状況〔概要版〕

資料3 令和3年環境モニタリング調査の評価結果〔概要版〕

資料4 今後のモニタリング調査及び環境モニタリング委員会〔概要版〕

補足資料

### 3. 議 事：

- (1) 環境モニタリング調査実施状況について
- (2) 令和3年環境モニタリング調査の評価結果について
- (3) 今後のモニタリング調査及び環境モニタリング委員会について

### 4. 議事概要：

第12回長安ロダム環境モニタリング委員会において、環境モニタリング調査実施状況、令和3年度モニタリング調査の評価結果、今後のモニタリング調査及び環境モニタリング委員会について審議を行った。

- (1) 令和3年度モニタリング調査の評価結果について

#### 【水環境】

- ・8月の嫌気化調査では、DOの値が7月の0.3mg/Lから3.3mg/Lまで

回復した時に好気状態になっていることが確認できた。今後も、DOの値がゼロに近い時に調査を実施し、選択取水設備運用後の底層の嫌気化について、引き続き留意するとよい。

- ・嫌気化の長期化により底泥からの溶出などの課題が生じた場合は、嫌気化の状況に合わせた選択取水設備の運用方法について再検討するとよい。

#### 【植物】

- ・ラン科Aについては、移植等が難しい植物であるが、熱心に移植等の環境保全措置に取り組んできたことで、その目的が達成されておりモニタリングを終了することによりとえられる。
- ・ラン科Bは、事業完了後に元の自生地に移植を行い、持続して生育できる見通しが立てば、モニタリング調査は河川水辺の国勢調査へ移行するとよい。
- ・ナカガワノギクについては、生育状況から工事に合わせてモニタリングを終了することによりとえられる。

#### 【猛禽類】

- ・猛禽類の生息や繁殖状況について、特に問題はなく、工事による影響は確認されなかったと評価できる。

#### 【下流河川調査結果】

- ・選択取水設備の運用前後における魚類の種数及び個体数の変化について、運用後に増加した種に加え、出現しなくなった種にも着目して整理するとよい。
- ・日野谷の底生動物の個体数及び湿重量は、選択取水設備の運用後に増加している。個体数及び湿重量が増加している種や優占種から、選択取水設備による効果を整理していくとよい。

#### (2) 今後のモニタリング調査及び環境モニタリング委員会について

- ・次回の環境モニタリング委員会では、これまでのモニタリング調査結果（平成23年度～令和3年度）を総括した最終報告書について審議を行うことで了解した。

以上の議事を踏まえ、環境モニタリング調査実施状況、令和3年度モニタリング調査の評価結果、今後のモニタリング調査及び環境モニタリング委員会は了承された。

(以上)